



文部科学省検定済教科書
中学校道徳科用
中学道徳 あすを生きる
1～3年

- 各学年「道徳ノート」付き。
- 解説編、朱書編、指導者用デジタル教材・デジタルデータ集・朗読音声 CD からなる**教師用指導書完備!**



詳しいご案内や
各種資料は
こちらから
ご覧いただけます!



どうとくのひろば

No.26

教科書特集号

【特集1】対談 島 恒生 × 臼井 二美男
「想像力」が「思いやり」になる…… 2

【特集2】ここがいい！
令和3年度版『中学道徳 あすを生きる』

- 特色1 「学習の流れ」が見える ……6
- 特色2 「いじめ」に正面から向き合う…7
- 特色3 よりよい社会を創造する ……8
- 特色4 心の成長を記録する ……9

【教師用指導書のご案内】…… 10

【道徳セミナー報告】…… 12

【見てわかる！道徳
「節度、節制」「礼儀」
[越智 貢, 奥田 太郎, 奥田 秀巳] …… 14

【実践事例【小学校】
対話を通して育む道徳科の理解と気づき
[山平 恵太] …… 16

【こんなコト、聞いてみました！
心に残っている道徳の授業は？〈その3〉
[石黒 真愁子, 江川 登] …… 18

【地球の仲間からのメッセージ
誤解 [長瀬 健二郎] …… 19

本資料は、一般社団法人教科書協会
「教科書発行者行動規範」に則り、
配布を許可されているものです。

日文の教科書情報

詳しくはWebへ!

日文

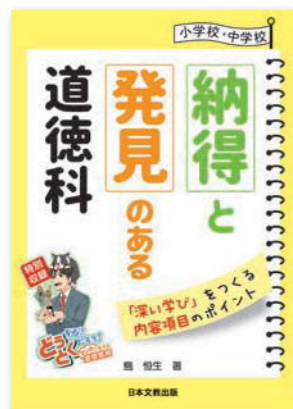
検索



小学校・中学校 納得と発見のある道徳科

発売中

単行本のご案内



発達の段階に沿って、小学校低学年から中学校までの「全内容項目のポイント」を解説し、「氷山の三層モデル」を使って、授業のねらいと発問を具体的に提案しています。
道徳科の課題を克服し、子どもたちにとって「納得」と「発見」のある授業を作っていきましょう!

島 恒生 著
定価 1,800円+税
B5判 216ページ



道徳に チャレンジ

発売中

石黒 真愁子 著
定価 1,800円+税
B5判 160ページ



考え議論する 新しい道徳科 実践事例集

発売中

鈴木 明雄
江川 登 編著
定価 1,800円+税
B5判 240ページ

どうとくのひろば No.26

日文教育資料[道徳]

令和2年(2020年)4月30日発行

編集・発行人 佐々木秀樹

発行所 日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261

本書の無断転載・複製を禁じます。 デザイン:モスリンググラフィック
本資料は令和3年(2021年)度版中学校道徳科内容解説資料として扱われます。

CD33499

日本文教出版 株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690

島 恒生
(しま つねお)

畿央大学大学院 教授
『中学道徳 あすを生きる』
代表監修者の一人。



臼井 二美男
(うすい ふみお)

公益財団法人鉄道弘済会
義肢装具サポートセンター
研究室長
義肢装具士。日本のスポー
ツ用義足製作の第一人者。

特集1 対談

「想像力」が「思いやり」になる

令和3年度版『中学道徳 あすを生きる』では、現行教科書の内容をパワーアップし、生徒がさらにさまざまなことについて考えられるようになっています。

今回は、新たに教科書にご登場いただく義肢装具士、臼井二美男さんの職場を島恒生先生が訪問。臼井さんの生き方や大切にしてくられたこと、思い描く社会についてお聞きしました。

「義肢装具士」という仕事との出会い

島：まずお伺いしたいのは義肢装具士を目指そうとしたきっかけです。最初の頃は「特にやりたいことがなかった」とお聞きしておりますが。

臼井：そうですね。20代のときの自分は、どういう仕事が向いているのかなかなかわかりませんでした。

そんな中で義肢装具士を選んだのは、子どもの頃に経験したできごとがあったからです。

小学6年生のときなんですけれど、担任の先生が足に腫瘍ができて、左足の太ももから下を切断して、義足になったんですね。それは小学生なりにかなりびっくりしました。そのとき「義足を作る仕事ってこういうあるんだ」と思ったんです。

それからは義足のことを忘れていたんですが、仕事を探すときになってそのできごとを思い出し、それがきっかけで義足の製作会社を見学に行ったりしました。

島：この教科書には「子どもたちに自信をもって人生を歩んでほしい」というコンセプトがあるんですが、臼井さんの小さい頃は、自信とかそういったものはありましたか。

臼井：僕はどっちかという結構慎重派というか、あまり大胆なタイプじゃなく、おとなしいほうでしたね。

ただ、仕事を探すときには実際にどういう仕事があるのかというのを自分から見に行ったりしました。そのときはかなり勇気を出しました。義足を作る工場に自分から行って、「こういう仕事があるんだ」と実際に現場を見せていただくのはすごく勇気のいることなんですけど、「やればできるんだな」と今は思いますね。

島：そのあたりは、やはり小学生の頃の先生との出会いが大きいんでしょうか。

臼井：そうですね。その先生とは、中学から高校へ行くときなどに進路のことで手紙で相談してましたから。

島：その頃の経験がどんどん積み重なって、今のお仕事に出合ったというような感じでしょうか。

臼井：そうですね。大切なのは、自分から行ってみる勇気を出すことです。新しいところへ自分が乗り出していくのはやっぱり怖いんですよね。行ってドアをたたくというのは最初は慣れないものです。ただ、一回やってみると結構慣れてくるということもあります。だからぜひ生身で現場を見たりしてほしい。現場の人と会話してみることはすごく大事ですよ。

島：そうですね。それが最終的に自分の仕事になるかどうかは別にしてね。いろんなことをやっていくことが大切ですね。

臼井：僕なんかは親が農業をやっている、父がほかに建築業をやっていたくらいで、世の中にいろんな仕事

があるということは、実感としてよくわからなかったんです。学校の先生だったり銀行員だったり、それくらいは何となくわかるんですけども。そういう意味では直接見学に行くとか、ちょっと会話をしてみることはすごく大事ですね。

義足の仙人

島：そうやって飛び込んだ世界で、臼井さんは今や「義足の仙人」と呼ばれているそうですね。なぜ「仙人」なんですか。

臼井：たぶんあれですね。特にスポーツ義足ってものをやる人がなかなかいなかったんですよ。生活用の義足は昔から作っている方がいたんですが、「義足でスポーツをやる」という人たちがサポートする人があまりなくて。僕がそれを最初にやったのが30年くらい前で、それからずっと今までやってきてますから、仙人になっちゃったのかもしれないですね(笑)。

島：スポーツ義足に携わったきっかけというのは何ですか。最初はスポーツ義足ではなかったんですよね。

臼井：もともと義足で走れるという人は少なかったんですよ。義足で走りたくても走るための部品がまだなかったり、無理に走ると壊れてしまったりという時代が長かった。走りたい人はいたと思うんですけど、それを補うような部品も開発されていなかったし、組み合わせで作ってくれる義肢装具士もあまりいなかったですね。

とにかく試行錯誤で『義足で走りたい』っていう夢をかなえたい』と思いながら長くやっているうちに、

パラリンピックの選手が生まれてきたりしました。

島：すごいことですね。そうやって「夢をかなえる仕事をやってみたい」というふうに思われるようになったのはどうしてですか。

臼井：そうですね……。例えば、交通事故で足を切断してきたときって、みんなやっぱり悲しい顔をして、どん底の状態ですよ。そういう人が義足を使うことで社会復帰して学校に行ったり、会社に戻ったりしていきます。それが今度はさらにスポーツをやると、なんていうか……自信がみなぎってくるんですよ。

初めて走れたときって、結構皆さん涙を流すんですよ。それって足のある人にとってはなかなかわからないことですが、10年とか20年もの間走れなかった人が走れたとき、私も喜びをすごく感じます。「ああ、一人ひとりに歴史があるっていうか、つらい思いをしてこられたんだな」というのを強く感じますよね。

そういうふうに患者さんがどんどん変化して、明るくなっていったり目標をもったり、要するにたくましくなっていくんですよ。

島：すごいですね。

臼井：それが一人ひとりについて僕も実感できるというか……一緒に歩めるようなところがありますね。そうするとどうしてもスポーツをすすめてみたくなりますよね。

島：「すすめてみたくなる」とおっしゃるんですけども、「どちらかと言えば、『しなさい』とか『やれ』などは積極的に言わない」ということもおっしゃってますね。

臼井：そうですね。やはり本人に「やりたい」とい

う気持ちがまずないと長続きしないんですね。だから、僕があまり押し過ぎては駄目ですね。後押しし過ぎてはだめで、やっぱりちょっと押し後は本人が少し歩み出すというか。ちょっと時間をかけて、やる気を見てエスコートするみたいな感じですね。

島：今、教育でもその視点ってものすごく大事だと言われているんですよ。可能性を引き出すっていうんですかね。そういう考え方はどうやって身につけられたのですか。

白井：一つ言えるとすれば、想像力みたいなものですよ。例えば患者さんが若い人だとしたら、その人が義足で日常生活をしたらどんなところで不便だろう、とかいろいろ想像するわけですよ。また、どんなところで便利になるだろうかとか。そうすると学校やお風呂、旅行、もっと言えばクラブ活動をやるとすればどんなところで義足で応援できるだろうかとか、いろいろ考えますよね。

島：それを膨らませていくという感じなんですね。

白井：そうですね。「思いやり」ってありますよね。やっぱり「思いやり＝想像力」だと思うんですよ。想像する相手が人なら、想像力が思いやりになったりするんだと思うんですよ。僕なんかは家族が多かったんで、一緒にいるときはなかなか考えることがなかったんですが、やはり地元から東京に出てくると、両親、おじいちゃん、おばあちゃんのことを想像することが多くなりました。そういうのを繰り返すと、それが思いやりになるのかな。それは感じますよね。

島：お話をうかがっていておもしろいなと思ったのは、

ユーザーの好きな柄を施した義足。
服には隠れるが、気持ちを明るくしてくれる。



小学校から「思いやりの大切さ」について学ぶのですが、中学校で学ぶ「思いやり」は何かというと「相手に気づかせない、さりげなさが大事だ」ということなんです。まさに白井さんのいろんな人との接し方が、本当に「風のように」というか、さりげなく、しかし温かく静かに包み込むような「思いやり」を、ものすごく感じました。

白井：よく「見返り」ってありますよね。何かをしたときにすぐに答えが返ってきて、褒められるとか感謝されるとか。そればかりだとやっぱり長続きしないと思うんですよ。見返りを求めたりすると、早く「物語」が終わっちゃうみたいなのがあるって、あまり価値がないと思いますね。

島：長続きさせたいっていうのはどうしてですか。

白井：人間はずっと一生を生きていかなきゃいけないですから。できれば一生の友達でありたいですね。そして「絆」を築くには言葉だけで繋ぎ止めるのではなくて、本当の信頼関係を築くのがいいですね。

島：今回お会いする前に、白井さんについていろんな勉強をさせてもらって、そういうものをものすごく感じていたのですが、今日お会いして、またさらに思いました。

白井：つらいこともあります。病気が原因で足を切断して義足は作ったけれども、中には本当に病気が悪化して命を落としてしまう人もいます。そうすると、次の人には「もっと生きる力が生まれる」くらいのもので作ってあげたいという思いが入ってきます。だからといってみんな助かるって保証はないんですけど、そういう思いを込めるといいますか。それにはやっぱり手を抜かないで「その人の命が少しでも前に向いて、生きる力が湧くような義足を作ってあげたい」と思いますね。

パラリンピックと今後の夢

島：そんな中で、パラリンピックの選手が生まれてくるのですね。

白井：長い「物語」の中で、パラリンピックに出場できた選手の喜びに立ち会えることもありますね。例えば3年前は入院していて、本当に歩くのもやっとだった若者が、3年後にパラリンピックのグラウンドに凛々しく立っているのを見ると、やっぱりやりがいもあるし、応援してよかったなって思いますよね。

島：それはすごくうれしいですよ。人間っていうのは力をもっているんですかね。

白井：人間も動物ですからね。その人が物事に向かって何か目標をもってチャレンジしていこうとすると、何か動物が持っているエネルギーみたいなものが強くなるのを何となく感じますね。

島：最近のパラリンピックを見ていると、F1のレースのような感じもしました。



競技者向けのスポーツ用義足。
素材はカーボンファイバー製のものが多く。

白井：そうですね。最近特に、車椅子とか義足の技術、機械科学などのレベルがすごく上がっています。

島：チーム力もあるし最終的にはその人自身の人柄のぶつかり合いのようなところもあつたりもするから、すごく興味があります。

白井：医学と科学といろんな要素が全部入って一人の選手が活躍できるみたいなのがありますから。

島：それはとても感じましたね。では今後の夢や目標は何かですか。

白井：今は若い義肢装具士の育成をしています。生活用の義足も作れて、それからパラリンピックの選手を生み出すような義肢装具士を育てていきたいです。

島：後輩の育成っていうのはとても重要ですよ。



ユーザーと定期的に相談しながら調整を施す。

白井：あとはやっぱり障がいがあってもスポーツをやりたい人、何かにチャレンジする人は増やしたいですよ。日本には7万人くらい義足の人がありますから。もっともっとスポーツに参加する人が増えてもいいと思います。いろんな人が相談できて、いい提案をしてあげられる場をもっと整えたいですね。

島：逆に、諦めてしまった人などはいらっしやらないですか。ほとんどのの方がやっぱり喜びの方に行くんですかね。

白井：スポーツが苦手な人もかなりいるんですよ。むしろ現実には、障がいがある人の中ではスポーツが苦手な人の方が多いですね。だからそういう人が少しで

も何かチャレンジするものを提案していきたいということで、義足のファッションショーをやってみたり、みんなで旅行に行ったり、ミュージカルを見に行ったり、ボウリングをやったりと、文化的なことも。

島：そういうことを企画しておられるのですか。

白井：そうですね、だからだんだんやりたいことが増えてきちゃって大変ですね。

島：そういうスタッフや仲間がいるとどんどん増えますよね。会もすごい人数なんですよ。

白井：今、メンバーが約220人いますね。

島：今まで動かせなかった体でいろいろなことができるようになってくると、家族もうれしいでしょうね。

白井：家族がすごく喜びますよね。子どもさんに障がいがある場合は、一緒に企画に参加してもらっていると親もすごく負担が軽くなったり、精神的に楽になったりするようですね。やはり悩みを抱えている親御さんがすごく多いですから。本人ばかりじゃなくて周りの人がすごく明るくなっていったり、解放されるってこともすごく感じますね。

島：働くことというのは「自分と相手と社会がよくなること」と言われます。この「社会」の部分は今おっしゃっていることにも通じるところでしょうね。「義足によって社会が変わってくる」ことはあると思われませんか。

白井：いや、変わるとは思いますよ。

島：どう変わりますかね。

白井：例えば車椅子の人が何かをしようとしたらそれを手伝う人も出てくることがありますよね。それを「面倒だ」とか「世話がやける」と思う人もいると思うんです。ところがその車椅子の人が輝いてくるといって変化してくると、手伝った人やサポートした人もやっぱり同じ喜びが得られて輝いていきますね。要するに「一緒に築き上げる喜び」みたいなものが出てくる。それがたぶん世の中を少しずつ変えていく。

例えば、車椅子の人にとって走りやすい、移動しやすい道路を作った人がどこかで喜びを感じたりしますよね。そういう連鎖みたいなものはあると思います。

島：喜びや優しさがいっぱい社会が広がっていくということですね。

今日はありがとうございました。お話を聞かせていただいて、とてもよかったです。

令和3年度版「中学道徳あすを生きる3」に白井さんのお仕事を紹介した教材「失った笑顔を取り戻す」を掲載しています。



撮影協力/鉄道弘済会

ここがいい！ 令和3年度版『中学道徳 あすを生きる』

日文的『中学道徳 あすを生きる』には、4つの特色があります。

特色1 特色2 は日文的の変わらぬよさ、特色3 特色4 は新版の改訂ポイントです。

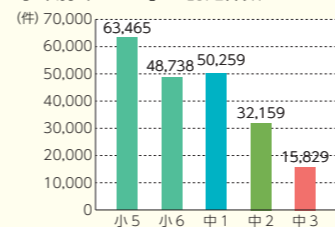
特色 2

「いじめ」に 正面から 向き合う

「いじめ」の未然防止のために

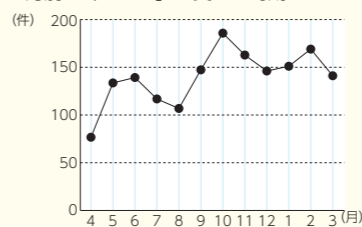
◆ ユニット「『いじめ』と向き合う」を1年間に複数配置し、生徒が自分たちのこととして考え、「いじめ」防止に正面から取り組めるよう工夫しています。

学年別「いじめ」の認知件数



〔平成30年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の課題に関する調査結果について〕 文部科学省による（国公立）

月別の「いじめ」を受けた時期



〔平成30年度 大津市いじめの防止に関する行動計画モニタリングに係るアンケート調査結果〕 大津市による（中学1～3年生）

ユニットを1年間に複数配置

「いじめ」の認知件数に関する具体的なデータをもとに、「いじめ」が特に起きやすい1年生には年間3か所、2、3年生にも2か所配置しました。また、「いじめ」が増加しやすい長期休みの後には重点的に配置するなど、必要な時期に学べるようにしています。



特色 1
「学習の流れ」が見える

学びに「見通し」と「躍動感」を

- ◆ 学習の流れを3ステップで可視化し、主体的・対話的で深い学びが生まれるようにしています。
- ◆ 問題解決的な学習、体験的な学習に適した教材の後には「学習の進め方」を設け、多様な展開例を示しています。

step 2

考え、議論する、深める

考えてみよう

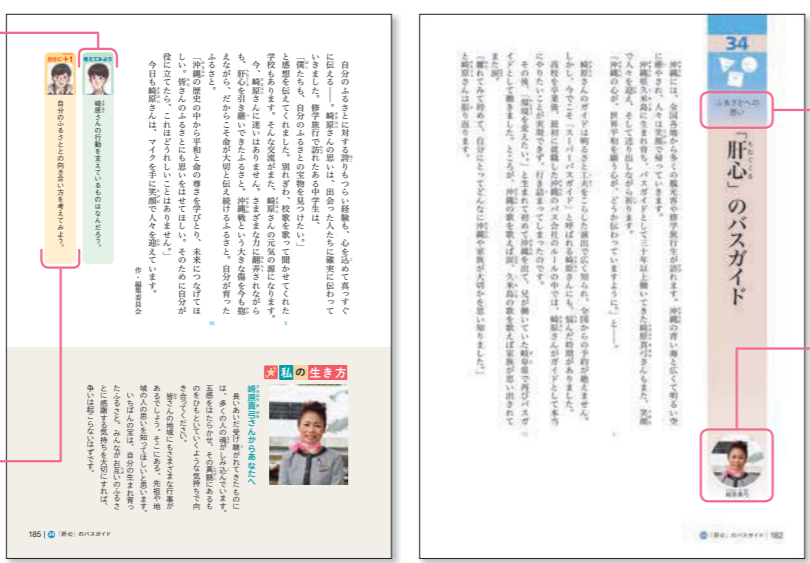
考え、議論し、ねらいに迫るための発問例です。

step 3

見つめる、生かす

自分+1

この授業で学んだことを、前向きに自分に生かすための発問例です。



新教材 1年 p.182 「34『肝心』のバスガイド」

step 1

気づく

主題名

この教材で「何について考えるのか」を明示。導入発問としても活用できます。

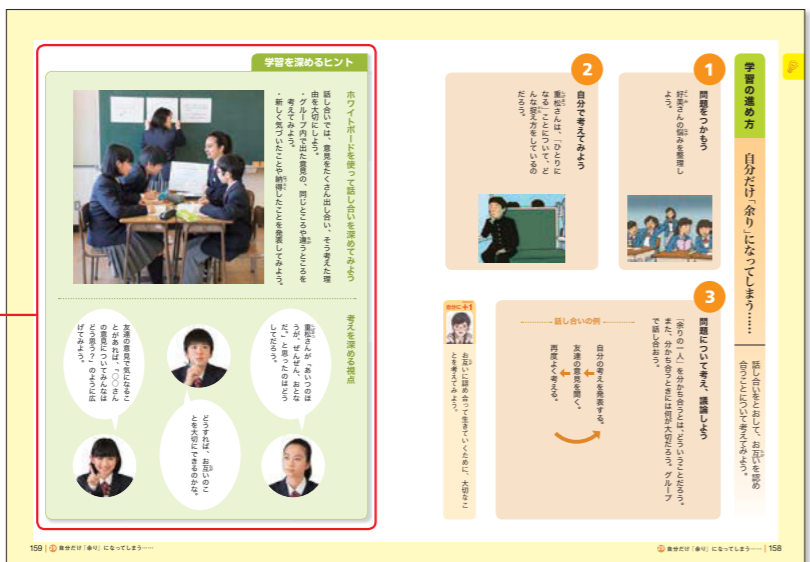
登場人物

内容把握を助け、議論する時間をより確保できるように工夫しています。

改訂ポイント

学習を深めるヒント

議論の方法や補助資料などを写真で紹介する新コーナーです。「考えを深める視点」として、多面的・多角的な視点からの問いも示しています。



1年 p.158 「29 自分だけ『余り』になってしまう……」 学習の進め方

カリキュラム・マネジメントへの配慮

教材配列は、生徒の発達の段階や学校の年間行事などを意識しました。これにより、道徳科を要とした道徳教育のカリキュラム・マネジメントを実現できるようにしています。

ユニット「『いじめ』と向き合う」

ユニットは多様な教材・コラムで構成しており、一定期間に集中的に学ぶことで、より深く、さまざまな角度から「いじめ」について考えられるように工夫しています。

「いじめ」を直接的に扱った教材



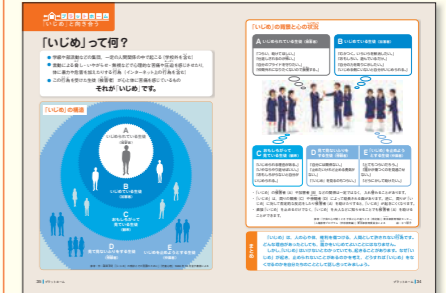
1年 p.30 「5 さかなのなみだ」 (内容項目：C「公正、公平、社会正義」)

「いじめ」を間接的に扱った教材



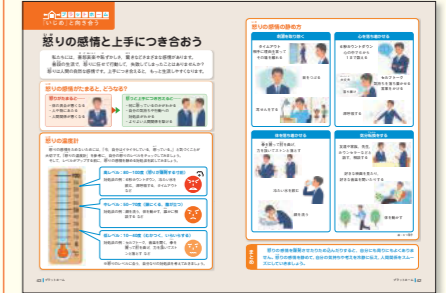
1年 p.44 「7 トマトとメロン」 (内容項目：A「向上心、個性の伸長」)

「いじめ」防止の知識に関するコラム



1年 p.34 「『いじめ』って何?」

「いじめ」防止のスキルに関するコラム



1年 p.42 「怒りの感情と上手につき合おう」

改訂
ポイント

特色 3

よりよい社会を創造する

未来を担う生徒たちのために

- ◆新学習指導要領の理念「社会に開かれた教育課程」を実現するために、新ユニット「よりよい社会と私たち」を1年間に複数配置しました。
- ◆生徒自身の生き方とよりよい社会との関わりについて、実感をもって考えられるようにしています。



SDGs (持続可能な開発目標) の考え方にも関わるユニットです。

改訂
ポイント

特色 4

心の成長を記録する (別冊「道徳ノート」)

より自由に、より使いやすく

- ◆発問欄を空欄にすることで、生徒の実態や授業スタイルに合わせて柔軟に活用できるようにしました。
- ◆ノートに生徒の学習を積み重ねることで、道徳科の個人内評価や家庭との連携が無理なく実現できます。

新ユニット 「よりよい社会と私たち」

新学習指導要領の理念「社会に開かれた教育課程」で求められているのは、学校と社会が連携して、これからの社会を担う子どもたちの資質・能力を育てていくことです。この理念をもとに、ユニットは「社会への参画」と「将来の生き方」の2種類で構成しています。

「社会への参画」に関わるユニット

共生社会、主権者教育など



1年 p.58 [9 ふれあい直売所]

「将来の生き方」に関わるユニット

進路、キャリア教育など



1年 p.172 [32 役に立つことができるかな]

発問は柔軟に

実際にノートを使う先生の意見を参考に、発問をあえて掲載せず、空欄にしました。教科書の発問に限らず、先生オリジナルの発問などを自由に設定できます。

※教科書本冊で「学習の進め方」を設定している教材については、学習の流れがわかりやすいように、「道徳ノート」にも発問を記載しています。

便利なドット罫

文字だけでなく図などさまざまな表現方法に対応できるように、ドット罫を入れました。

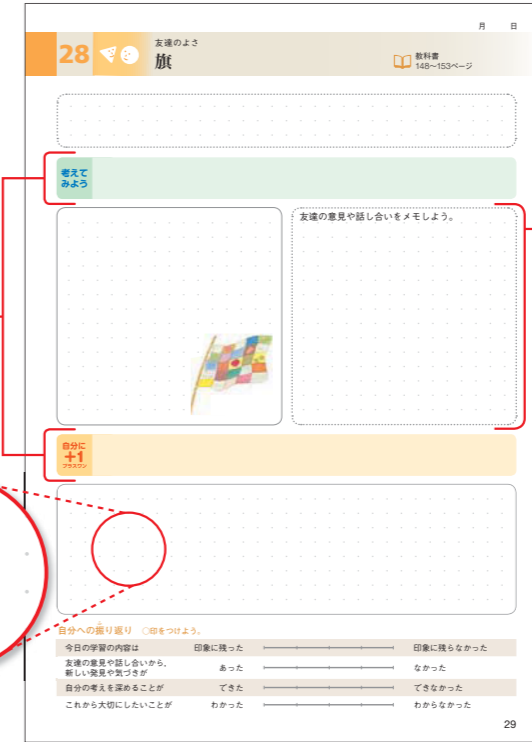
ポートフォリオとしても活用可能

教材に関する補助資料や自作のワークシート、付箋などを貼り付けて、授業の記録を蓄積できます。

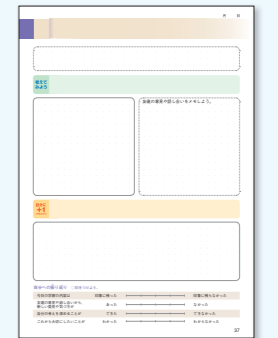
「考え、議論する道徳」につながる

記入欄を左右に並べたことで、自分と友達の考えを対比して考えを深めやすくなりました。

どんな教材でも使える「フリーノート」(巻末)も用意しています。



1年 道徳ノート p.29 「28 旗」



3年生への備え

職場体験学習の事前・事後

35 My Own Road - 僕が生きる明日	34 包む	33 おちん	32 恋する季節	31 命を見つめて - 娘が眠るまで	30 運命	29 ふれあい直売所	28 ココロの駅	27 ダッシュ・リンピック	26 よみがえれ、えりもの森	25 ライバル	24 オーストリアのマス川	23 夜にくれたもの	22 初心	21 さよなら、ホストファミリー	20 行動する建築家 坂茂	19 小さな工場の大仕事	18 「自分」ってなんだろう?	17 職場体験学習	16 朝陽と夕陽	15 ネット	14 インターネットでの情報発信	13 ハイタッチがくれたもの	12 美しい鳥取砂丘	11 海と空 - 艦隊の人々	10 戦争を取った友	9 名乗り出なかつた友	8 人権擁護への取り組み	7 リスケット・アサース	6 五月の風	5 自分を見つめよう	4 最後のパートナー	3 挨拶は言葉のスキップ	2 おばあちゃんに会った「おまじない」	1 自分の好きなこと
-----------------------------	----------	-----------	-------------	-----------------------	----------	---------------	-------------	------------------	-------------------	------------	------------------	---------------	----------	---------------------	------------------	-----------------	--------------------	--------------	-------------	-----------	---------------------	-------------------	---------------	-------------------	---------------	----------------	-----------------	-----------------	-----------	---------------	---------------	-----------------	------------------------	---------------

2年 もくじ

他の学習と 合わせたユニット

2年生では、職場体験学習の事前・事後に合わせて配置し、生徒がより実感をもって学習できるようにしています。

本誌
P.2に
対談を
掲載!

進路に関わる教材

義肢装具士の白井二美男さんの生き方から、働くことの意義について考えられる教材です。



新教材 3年 p.122 [21 失った笑顔を取り戻す]

主権者教育に関わる教材

市長選に関わる主人公と家族との会話から、将来の選挙権について考えられる教材です。



新教材 3年 p.170 [31 サトシの一票]

生徒の成長に 合わせた教材

最高学年である3年生では、進路や主権者教育に関わる教材で、生徒自身の生き方とよりよい社会との関わりについて考えられるようにしています。

評価への活用、家庭との連携



「道徳ノート」で家庭と連携できるのはいいですね。私のクラスのAさんは、授業の様子を家庭であまり話さないようです。しかし、ある授業でのAさんの意見がとても素晴らしかったので、評価でも取り上げたところ、保護者の方から「自分の子どもの成長がわかってうれしい」と喜ばれました。

Aさんへの評価文(例)

道徳科の時間を通して、友達の考えをよく聞いて受け入れながら、自分の考えを広げました。「挫折から希望へ」では、話し合いで自分とは違う考えに触れ、「道徳ノート」には「あきらめないこともあきらめることもあっていい」「自分自身で決めればいい」という記述があり、異なるどちらの考えも理解しようとしていました。

教師用 指導書の ご案内

さらに使いやすくなった教師用指導書

[教師用指導書セット内容]

- ① 解説編 (各学年1冊)
- ② 朱書編 (各学年1冊)
- ③ 指導者用デジタル教材 (各学年1部, DVD-ROM)
- ④ 指導者用デジタルデータ集 (各学年1部, CD-ROM)
- ⑤ 指導者用朗読音声CD (各学年1セット, 音楽CD)



教師用指導書
セットに付属。
追加購入の
必要は
ありません!

※編集中のため、内容や構成は予告なく変更になる場合があります。

① 解説編

ひと目で授業全体が見通せる, 1教材あたり見開き2ページの構成です。
※教科書で「学習の進め方」を設定している教材は、学習指導過程の別案を加えた4ページ構成になります。



教材分析

ねらいを外さない授業にするために、時系列と構造の2つの教材分析を掲載しています。

改訂ポイント

学習指導過程

全国各地の授業実践を参考に、生徒がより深く考えられるよう発問や留意点などを改良しています。

② 朱書編

本文の縮刷の周りに発問などを掲載することで、授業の流れを見やすくしています。



発問・指導上の留意点

教材の流れに沿って必要な情報を掲載し、どこで発問をすればよいか把握しやすいようにしています。

板書例

授業がイメージしやすいように、カラーで掲載しています。

改訂ポイント

教科書QRコンテンツ

教科書QRコンテンツは、教科書もくじに掲載のQRコードからアクセスできる、動画や画像などのコンテンツです。教師用指導書のQRコードからも、各教材のQRコンテンツへ直接アクセスできます。



読み取ってアクセス!



3年 p.140
[25 iPS細胞で難病を治したい]
教科書 QR コンテンツページ

※「QRコード」は株式会社デンソーウェアの登録商標です。

③ 指導者用デジタル教材



教科書誌面をデジタル化し、豊富な機能やコンテンツを用意しました。

機能

- 登場人物・作者の拡大
- 場面絵・写真の拡大
- 発問の拡大
- 総ルビ切り替え
- 白黒反転

など



1年 p.182 [34 肝心のバスガイド]



プロによる朗読音声

すべての教材に、プロによる朗読音声データを収録しています。

コンテンツ

指導者用デジタル教材限定のスペシャル動画・画像・資料データを多数収録しています。



1年 p.114 [21 富士山から変えていく]
富士山紹介 (動画)



2年 p.180 [34 包む]
風呂敷の包み方 (動画) ほか

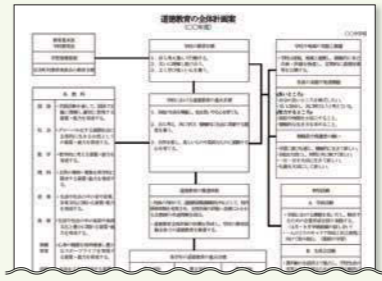
④ 指導者用デジタルデータ集



カリキュラム・マネジメントにつながる指導計画作成や、授業準備に役立つデータを多数収録しています。

計画作成

- 道徳教育の全体計画面
- 年間指導計画面
- 全体計画面別業 (各教科等との関連表)



授業準備

- 学習指導案
- 顔絵、場面絵・写真
- ワークシート



改訂ポイント

⑤ 指導者用朗読音声CD



パソコンがなくても、CDプレーヤーで手軽にプロの朗読音声を使用できます。各学年とも全35教材分を収録しています。



道徳セミナー報告

令和元年度は、全国各地で道徳セミナーを開催し、のべ400名以上の方にご参加いただきました。子どもたちが主体的に友達や先生と対話し、納得や発見のある深い学びが得られる道徳科に向けて、日頃はこれからも尽力いたします。来期もぜひご参加ください。



沖縄会場



沖縄 令和2年1月18日(土)

模擬授業で学ぶ!! 授業が深まるポイント

- 中学校・模擬授業
「No Charity, but a Chance!」
永林 基伸 先生 帝京科学大学 教職センター特命教授
- 講演「いま道徳科の授業に必要なこと」
越智 貢 先生 広島大学 名誉教授

模擬授業は、生徒役として話し合うのではなく、生徒とともに考える授業の前に「教師としてどのような課題意識や考え方をもっているのか」を確認し合うねらいがありました。そこでまず教師として、一人の大人として考えることで、踏み込んだ議論が展開されていました。講演では「規則の尊重(小学校)/遵法精神、公德心(中学校)」を取り上げ、19~22ある内容項目がどう関連しているのかを考え、先生方が授業に臨む際にどんな点を意識すべきかについてお話しいただきました。

アンケートより

模擬授業や講演から内容項目を「深読み」することの必要性がわかりました。

福岡 令和元年12月21日(土)

「特別の教科 道徳」の指導のあり方

- 講話「『学びの場』としての道徳授業へ -教科化時代の道徳授業づくり-」
上地 完治 先生 琉球大学 教授
- 講話「『特別の教科 道徳』を考える」
アクティブラーニング
「道徳科における指導のあり方考える」
川野 司 先生 元福岡市立青葉中学校 校長

上地先生からは、「多面的・多角的に考える」ことの意味や「発問」の在り方、授業での「話し合い」の意義などについて、さまざまな提案や助言をいただきました。川野先生には、道徳科についての講話のあと、実際の授業研究の場面を手がかりにした模擬的なアクティブラーニングの進め方をご指導いただきました。

アンケートより

授業について具体的な話が聞けてよかったです。機会があれば、評価や見取りについて詳しく聞いてみたいです。

大阪 令和元年12月22日(日)

模擬授業で学ぶ!! 授業が深まるポイント

大阪では、愛知会場と同じ内容でセミナーを行いました(詳しくは『どうとくのひろば 25号』をご覧ください)。

アンケートより

一生懸命取り組んでいただいた模擬授業が非常にありがたかったです。鳥先生の解説も具体性が増すので、このセミナーの流れは素晴らしいと思いました。



愛知会場

愛知 令和2年2月9日(日)

模擬授業で学ぶ!! 授業が深まるポイント

- 小学校・模擬授業「まどガラスと魚」
龍神 美和 先生 豊能町立東ときわ台小学校 教諭
- 中学校・模擬授業「裏庭のできごと」
福島 信也 先生 森ノ宮医療大学 教授
- 講演「これからの道徳科授業」
鳥 恒生 先生 畿央大学大学院 教授

「発達の段階の違い」をポイントに、小・中とも同じ内容項目で模擬授業を行いました。模擬授業後の振り返りでは、フロアとの活発な質疑応答が行われました。講演では、「考え、議論する道徳」を実現するための3つのポイントをお話しいただきました。

アンケートより

発達の段階によって何をどこまで求めるのかなど、教材研究の必要性を感じました。今回はAの視点だったので、B、C、Dの視点の模擬授業も見たいです。

青森

令和2年1月13日(月・祝)

考え、議論する道徳の授業展開



- 小学校・実践発表「なくしたかぎ」
松谷 雄一 先生 青森市立浪館小学校 教諭
- 中学校・実践発表「二人の約束」
藤田 沙紀子 先生 青森市立佃中学校 教諭
- 指導・講評
渡邊 真魚 先生 二本松市立沢川小学校 校長
- 講演「考え、議論する道徳の実現に向けて」
鳥 恒生 先生 畿央大学大学院 教授

セミナーのテーマである「考え、議論する道徳の授業展開」を実現するために、どのような手立てがありうるのか、心情メーターやロールプレイの導入など具体的な実践の報告と提案をいただきました。講演では実践発表を踏まえながら、「考え、議論する道徳」のポイントをお話しいただきました。

アンケートより

具体的な授業作りについて勉強になりました。授業のねらいでは、小学校の低・中・高学年・中学校の発達の段階に応じたゴールの大切さを実感しました。「納得」と「発見」のある授業を目指したいです。

静岡

令和2年2月15日(土)

実践報告で学ぶ!! 授業が深まるポイント



- 小学校・実践報告「ロレンゾの友達」
齋藤 真弓 先生 つくば国際大学東風小学校 講師
- 中学校・実践報告「言葉の向こうに」
「iPS細胞で難病を治したい」
多田 義男 先生 筑波大学附属中学校 教諭
- 講演「これからの道徳科授業を更に深めるためのポイント」
鳥 恒生 先生 畿央大学大学院 教授

セミナーのテーマは「授業が深まるポイント」でした。実践報告では、準備段階での学習課題(テーマ)設定の方法や、授業を進める際の留意点、具体的な方法論についてご報告いただきました。報告後には会場からの質問に答える形で振り返りも行いました。講演では、実践報告の振り返りを踏まえながら、授業を深めるポイントをお話しいただきました。

アンケートより

普段考えていた道徳の授業の在り方について再度考えさせられました。教師が道徳的価値をどう捉えるかで授業が変わってくることを強く感じました。

「節度, 節制」「礼儀」

監修：広島大学 名誉教授 越智 貢
 共著：南山大学 教授 奥田 太郎
 富山国際大学 講師 奥田 秀巳

礼儀作法と共同体

私たちの社会には、挨拶の仕方や敬語の使い方、さらには食事の際の作法など、数多くの礼儀作法があります。もちろん、社会によって、礼儀作法の表し方は異なります。頭を下げる挨拶もあれば、握手をする挨拶もあります。しかし、古今東西を問わず、礼儀作法をもたない社会は考えられません。礼儀作法は何のためにあるのでしょうか。

礼儀は、多くの場合、現在を共に生きる人々に対して行われますが、すべてがそうとは限りません。例えば、葬儀では死者に対しても礼儀ある振る舞いが求められますし、食事の際の「いただきます」のように、さまざまな命に対しても礼儀の言葉が向けられます。礼儀作法は恣意的で形式的なものだと考える人さえ、神仏の前に出れば、自然と手を合わせるに違いありません。

礼儀作法は、私たち人間の生き方と深いつながりがあるようです。言うまでもなく、人間は一人だけでは生きていけません。さまざまな人々と共に生きていかざるを得ない存在です。そうした存在だからこそ、同じ共同体の中で共に生きる、そして共に生きた人々

に対して敬意や感謝の気持ちを伝え合うのです。礼儀作法の源泉はこの辺りにあると思われます。つまり、礼儀作法は共同体にとって大切な人やものを敬うための表現様式だということができるでしょう。

礼儀作法と習慣

では、私たちはどのようにして礼儀作法を身につけるのかというと、そのほとんどは「習慣づけ」と呼ばれる方法によってです。初めは言われるままに行為の形式をなぞるだけだった礼儀作法が、時間をかけて習慣的に繰り返されるうちに徐々に自分のものとなり、やがて意識せずとも発動するようになります。その際、見逃すべきでないのは、その変化と共に、礼儀作法のいわば精神ともいべきものが少しずつ理解できるようになることです。礼儀作法を大切にす人々が若者より成人に多いのは、そうした精神的意義を理解するのに多くの時間がかかるためだと考えられます。

節度とは

節度や節制も、礼儀作法と同じく、共同体や習慣づ

けと無関係ではありません。

何にでもふさわしい節度があります。食べることにおいても、過不足のないちょうどよい程度、つまり節度が求められます。過食は栄養を偏らせ、拒食は栄養不足をもたらすからです。そうした節度を守ることが節制です。

ただし、節度は厳密な基準をもっているわけでも、数値化できるものでもありません。いったい節度とは何なのでしょう。

アリストテレスの考え方が参考になりそうです。彼は、節度を過多と過少の間にある適切さ、しかもある幅をもった適切さだと考えました。適切な睡眠時間が人による違いを含んだ一定の時間を指しているように、節度は各人の違いを含む一定の幅をもった適切さです。私たちは、家庭や学校などの共同体の中で、そうした節度の存在を学びながら、自分にふさわしい節度を身につけることになるのです。

節制と「よく考える」こと

もちろん、中には節度そのものを否定し、節度のない生活を選ぶ人がいるかもしれません。その人にとっ

て節度を守ることは、礼儀作法と同様、自分自身を縛り自分の自由を奪うことでしかないからです。

しかしその際、留意しておきたいのは、アリストテレスたちによって使われた「節制」(ギリシャ語でソープロシュネー)という言葉が「健全な思慮」という原意をもっていたことです。つまり、彼らにとって、節制することはよく考えて振る舞うことでもあるのです。

よく考えることなしに、自ら節度を守ることは困難です。節制とは、何より自分の過剰な欲求や欲望を抑えることだからです。そして、こうしたよく考える振る舞い方を自分のものにするためにも、礼儀作法のように、時間をかけた習慣づけが欠かせません。習慣づけが教育の重要な方法の一つとして位置づけられているのはそのためです。

このように、礼儀や節制は、共同体という私たち人間が生きている世界と深く関わっています。学校もそうした共同体の一つであることを忘れるべきではありません。

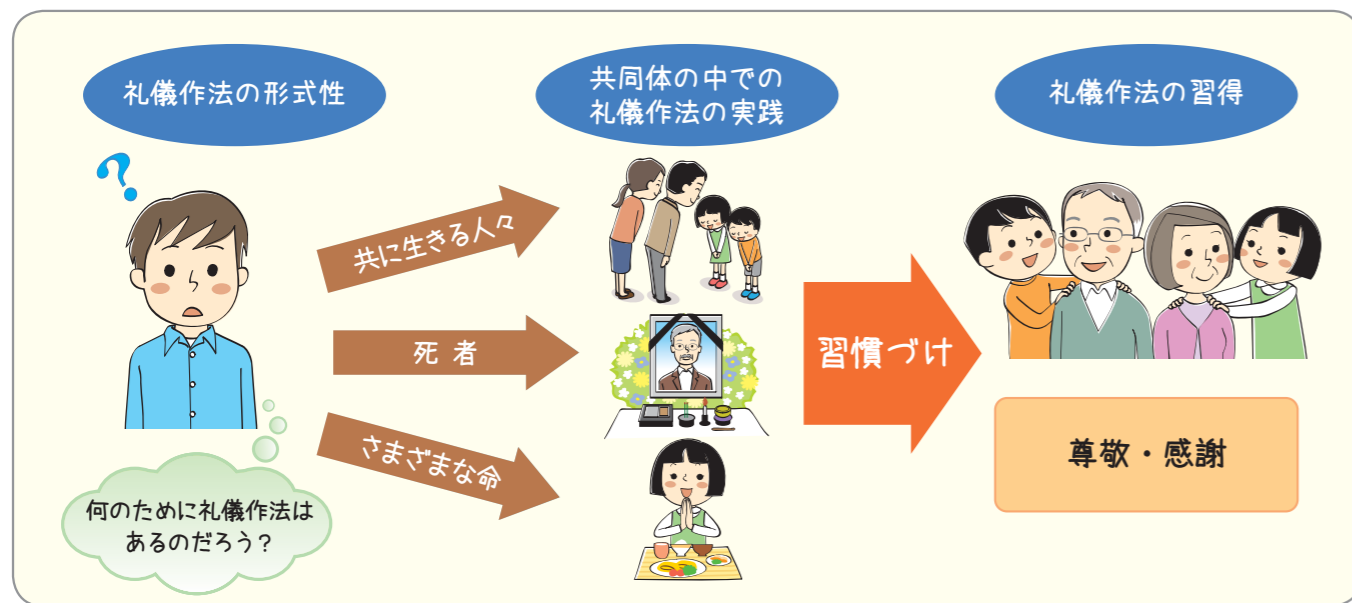


図1 礼儀作法とその習得

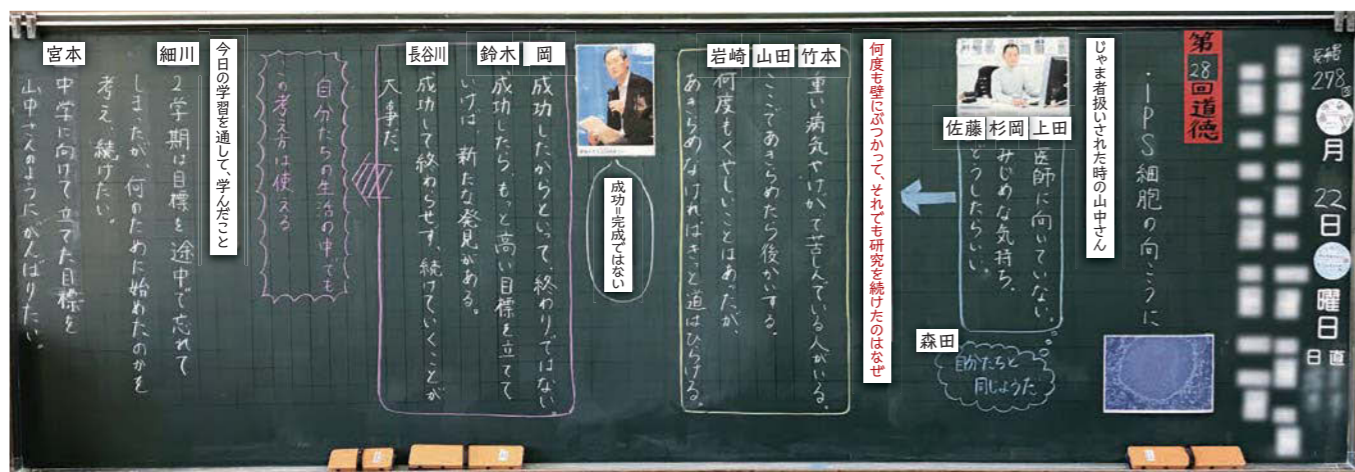


図2 節度, 節制を学ぶこと



対話を通して育む道徳科の理解と気づき

熊本県熊本市立弓削小学校 教諭 山平 恵太



対話を通して育む道徳科の理解と気づき

(1) 経験を問う

子どもたちの発表やつぶやきを聞いていると、教材の登場人物に自分を重ね、その登場人物について話すように自分のことを話すことがある。教材について話しているようで、実は無自覚に自分のことを話しているのである。そこで「似た経験があるのかな?」「～さんも同じような経験があるの?」と問い返すことで、無自覚であったことが少しずつ自覚に変わり、自分のことをわかってもらおうと、自分の経験を語り出していく。教材のことを話しているようで、自分の経験を話すことで、自分ごととして学習を捉え直していくことができる。すべてが経験したことにつながるわけではないが、子どもたちが話す言葉を注意深く聞くことはたいへん重要である。

(2) 子どもたちのつぶやきをグループ活動で生かす

子どもたちの様子を見てみると、よく発表する児童と、黙って話を聞いている児童とに分かれることがある。授業は子どもたちの発表抜きでは成り立たないので、よく発表する児童中心の授業になることも多い。終末に書かせる感想を見ればすべての児童の考えがわかるが、途中で誰の発言を聞いてどのように考えが変わったのかまでは、なかなか見取ることができない。

そこで取り入れたいのは、ペアやグループでの交流である。これは教師が苦し紛れに取り入れるものではなく、「全体での発表に苦手意識はあるけれども、自分の考えをもち授業に参加している」という児童への支援の一つである。ペアやグループでお互いの考えを交流させることで、頭の中で浮かんで消え、また浮かんで消える自分の考えを、すぐに

隣の児童に伝えることができる。友達との交流は、自分の考えに自信がない人から話すことが大切で、そのとき相手の児童には、じっくり話を聞くことを徹底させたい。注意することとしては、相手の考えを「わかってもらう」ということと、わからないことは「尋ねる」という活動が展開されるようにすることである。対話において大切なのはあくまで聞くことなので、グループ活動では自己主張をし合うのではなく、他者理解につながる視点を明確にして行っていく必要がある。

(3) 高まった価値から自己理解を深める

価値理解、人間理解、他者理解を十分に深めることができれば、より高まったところから自己を見つめることができる。価値理解や人間理解だけでは、表面的な学習になりかねない。そこで、展開の中で3つの理解につながる学習活動が必ず行われるようにし、それぞれの理解を十分に深めたいうえで、自己を見つめることができるようにする。

(4) 振り返りを子どもたちに返す

学習の振り返りでは、今までの自分（教材に出会うまでの自分）とこれからの自分を見つめる習慣をつけさせるようにしておく。

子どもたちの振り返りは、教材についての感想になることが多々ある。しかし、道徳科における振り返りでは、自分自身と重ねて考えたことを自覚的に振り返らせたい。教材という共通の土台で、対話を通して学習の理解が深まれば、そこには新たな気づきが生まれる。その気づきは一人ひとり違うことから、できる限り多くの児童が発表する時間を取りたい。お互いが考えたことを知ることで、多面的・多角的な理解につながっていくものと考えられる。

展開例

内容項目：A「希望と勇気、努力と強い意志」

主題名 終わりになき挑戦

教材名 iPS細胞の向こうに
 (『小学道徳 生きる力 6』日本文教出版)

ねらい

山中伸弥さんが困難や挫折を乗り越える姿に着目し、どんなに苦しくても諦めずに努力し続けることがなぜ大切なのかを理解させ、自分自身との関わりで考え、くじけずに夢と希望をもって努力を続けていこうとする心情を育てる。

	学習活動 (◎中心発問, ○主な発問, ・予想される児童の反応)	◇指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 事前アンケート結果から、本時の価値に触れる。 ○アンケート結果を見ましょう。 ・諦めずに頑張る人って多いな。 ・頑張り続けるのは難しい人もいる。 ・どうしたら諦めずに続けられるだろう。	◇「自分が困難な状況になった場合にどうするか」というアンケート結果から感じたことを近くの児童と話させることで、自分ごととして捉えることができるようにする。 ◇山中さんと全く同じではなくとも、似た状況が自分たちにもあることに気づかせ、教材と児童との距離を縮める。
	2 「iPS細胞の向こうに」をもとに、話し合う。 ◎指導する教師から邪魔者扱いされたときの山中さんはどんな気持ちだったでしょう。 ・医師に向いていないから諦めよう。 ・惨めな気持ち。 ・どうしたらいいのだろう。 ◎何度も壁にぶつかって、それでも研究を続けたのはなぜでしょう。 ・重い病気やけがで苦しんでいる人がいるのに、諦めることはできない。 ・ここで諦めたら、誰も助けられないし、自分が後悔する。 ・何度も悔しい経験はあったけれど、諦めなければきっと道は拓ける。 ◎「成功=完成ではない」という山中さんの言葉から、どんなことがわかりますか。 ・成功したからといって終わっていたら、そこから先に進めないということ。 ・成功したら、もっと高い目標を立てていけば、もっと新たなことが発見できる。 ・成功したから終わりではなく、続けていくことでより大きな発見につながる。	◇教材は事前読みをさせておく。 ◇邪魔者扱いされたときの山中さんの気持ちを考えさせることで、自分たちと同じような悩みや弱さをもっていたことに気づかせ、人間理解を深める。 ◇近くの児童と話し合わせ、友達の話を聞いた後、自分の考えを伝えさせたりすることによって、他者理解を促進させるようにする。 ◇発表の中で、自分の経験からくることを話し出したときは「似た経験があるのかな?」と問い返し、自分ごととして捉えさせる。 ◇発表したことを板書する際、児童の名前カードを使うことで、考えたことや対話を可視化できるようにする。 ◇価値理解、人間理解、他者理解につながる発言や発表に対して問い返す。 ◇黒板に書くときに色分けして残すことによって、振り返りに活用できるようにする。
展開	3 自分の生活を振り返る。 ○今日の学習を通して、学んだことを書きましょう。 ・2学期は目標があっても途中で忘れてしまったり、諦めたりしたけれど、何のために始めたのかを考えて続けるようにしたい。 ・今までは努力が続かなかったけれど、中学校に向けて立てている目標があるから、山中さんのようにくじけず続けていきたいと思った。 ・今までは目標を達成したら終わっていたけれど、これからは「成功=完成」ではなく、より高い目標をもって挑戦し続けていきたい。	◇教材を通して学んだことや友達との対話を通して気づいたことをもとに、今までの自分を振り返って書けるように助言する。 ☆困難があってもくじけずに努力するには何が大切か、自分の生活との関わりで考えることができたか。 (ワークシート、発言)
終末		



今回のテーマ

心に残っている道徳の授業は？ 〈その3〉

ちょっと聞いてみたいギモンに経験をもとにお答えいただきました。

授業のヒントになったり、励みになったり。これからの道徳の授業に生かせる何かが見つかるかもしれません。

児童生徒の心を揺さぶる教師の説話

元埼玉県さいたま市立大門小学校 校長 石黒 真愁子

「説話は人なり」といわれる。道徳授業における説話とは、自己の体験談や願い、または社会的な話題を、教師から児童生徒に語りかけるものである。その中でも特に、教師自身の体験談は、生徒たちの心に直接的に働きかけ、実感をもって人間としての生き方についての自覚を促すものである。しかし、それだけに難しい。

ここで、一生忘れることのできない説話を紹介したい。読み物教材「背番号10」(『中学校道徳 読み物資料集』文部科学省)で、甲子園球児であった若手教員をゲストティーチャーに招き、授業を行ったことである。綿密な打ち合わせをもとに授業は進み、照れ臭そうに登場した若手教員の姿を生徒たちがニコニコしながら眺める中、いよいよ説話が始まった。するとどうだろう。それまでの和やかな空気が一変し

た。甲子園に夢をかけて努力を重ねたこと、仲間との絆、苦しみを通しての喜び、そして最後に周りの人々への感謝の思い。信念に貫かれたその生き方に、生徒たちは息をのんだ。目をうるませながら徐々に語られる熱い思いは、生徒や私の心にまで深くしみ込んできた。そして、最後に掲げた甲子園の土の入ったボトルに、生徒の視線は釘づけとなった。中には涙ぐんでいる生徒もいた。「たった数分の説話が、生徒の一生を変えることもある。」私はそのときそう思った。

説話が独善的な道徳的価値の押し付けではなく、児童生徒の心の琴線に深く働きかけるものであれば、それは心情陶冶に大きな役割を果たすものである。まぶしいほどの威厳に満ちた若手教員の姿が、今も私の脳裏に焼き付いて離れることはない。きっと当時の生徒たちも私と同じ思いを抱いていることであろう。

親の思いを伝える授業

東京都豊島区立西池袋中学校 統括校長 江川 登

「家族愛」をテーマにした授業の思い出です。20年くらい前ですが、当時先進校ではゲストティーチャーを招いた授業を行っていたので、私も取り入れてみようと思い、保護者を招いて「子どもが生まれたときの親の思い」を語ってもらうこととしました。親の思いを手紙にし、それを代表で1名の保護者に読み上げてもらうのです。ほかの生徒には事前にそれぞれの保護者から提出していただいていた手紙を配り、各自で読んでもらうこととしました。

ここで、準備の段階で越えなければならない壁がいくつか発生します。いちばんの壁は、この趣旨をクラス全員の保護者に了解していただき、実際に手紙を書いていただいて、授業が始まる前に集めておくことでした。もし、生徒全員分の手紙が集まらなかったらこの企画は中止する心づもりでしたが、こちらの心配をよそに比較的早い段階でクラス全員分の手紙を集める

ことができました。次の壁は、実際に授業で手紙を読み上げてもらうことを、その生徒本人と保護者に了解していただくことです。こちらも了承され、準備OKです。このことはほかの生徒には内緒にしておきました。

この授業は、学校参観日で多くの保護者が来校されているときに行ったのですが、代表の保護者の朗読が始まると、あちらこちらからすすり泣く声が聞こえてきました。参観していた保護者たちが目頭を押さえ始めたのです。そんな雰囲気の中で、クラスの生徒全員にそれぞれの保護者からの手紙を渡しました。そこに書かれている内容はわかりませんが、当時生活指導面で手を焼いていた生徒が、神秘的な面持ちで保護者からの手紙を読んでいた光景は今でも記憶に残っています。

地球の仲間からの メッセージ

元大阪市天王寺動物園 園長 長瀬 健二郎

誤解

以前、天王寺動物園でニホンザルを展示していた頃のことですが、ニホンザルを見ているお客さん同士の会話の中に「ボスザル」という言葉がよく出てきました。「あれが大きいから、ここのボスザルやなあ。」とか「しっぽをピンと立てているから、あれがボスザルかなあ。」とかです。きちんと訂正の説明をしていたこともあったのですが、あまりに頻繁なため諦めました。

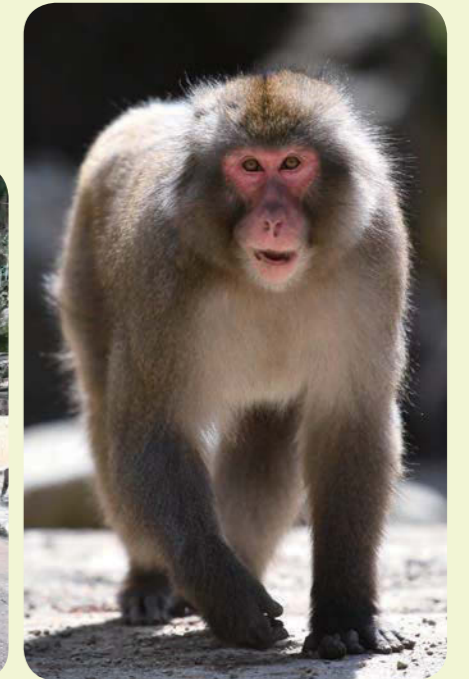
ニホンザルにボスザルという存在などないのです。

動物の生態を研究するには、その動物の頭一頭をしっかりと識別して観察することが不可欠なのは言うまでもありません。しかし、野生の動物は研究者の接近を簡単には許してくれません。初期のニホンザルの研究者はこの第一歩をクリアするためかなり苦労されたようです。そこで思いついたのが「餌付け」です。どんな動物も食べ物の魅力に抗うことはできません。研究者がまいて与えるエサにニホンザルが集まり始め、ついには研究者がいても平気でエサを食べるようになりました。観察がしやすくなって研究は飛躍的に進んだのですが、この餌付けが大きな誤解を生むことになりました。

エサをまく場所はそんなに広くはありません。そのため体が大きく強いオスがその場を占領し、エサ場への接近はメス以外許しません。その振る舞いは人間社会におけるボスのように見えたため、ボスザルと名づけられました。しかし、自然の状態ではそのように特定の場所だけに食べ物が集中するようなことはない



▲ニホンザルにボスザルは存在しません。



です。サルが食べる果実や木の実、木の葉は森や林のあちこちに散らばって存在するため、独り占めなどできません。メスも一か所に集まるようなことはありませんから、これも独占のしようがないのです。つまり研究者の目の前で展開するニホンザルの行動は、餌付けという自然な状態とはかけ離れた特殊な状況での行動だったのです。

このことに気づいたその後の研究者は、餌付けではなく、ヒトの存在に馴らせる「ヒト付け」をし、自然な状態で観察する方法に変えました。これにはとても大きな苦労と努力を伴ったのですが、そのかいあって正しくニホンザルの行動を解析できるようになり、ボスザルという存在はニホンザルの群れの中にはない、ということが明らかになりました。

しかし、ボスザルというネーミングはとてもキャッチーだったのか、日本人のボキャブラリーの中にすっかり定着してしまっただけです。この誤解を訂正するのはなかなか骨が折れ、とても時間がかかりそうです。